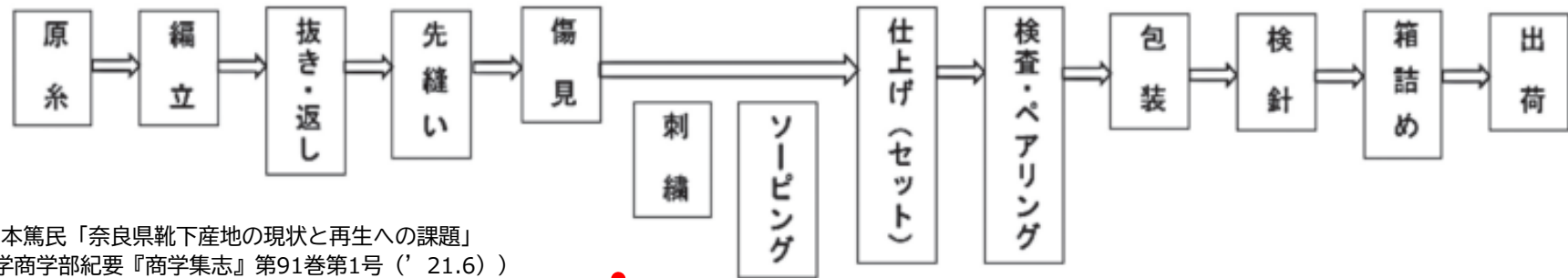


2. 各産地（地域）における調査結果のポイント

（4）奈良・靴下産地のSC構造

「編立」事業者を中心とした分業体制が構築

- 奈良靴下産地のSCは、「編立」事業者を中心とした分業体制が構築されている
- 各工程のうち、「原糸（染色）」、「刺繍」、「仕上げ（セット）」は分業（外注）するケースが見られる
- 「抜き・返し」や「先縫い」、「検査・ペアリング」等は内職へ依頼している。元々は農家の副業として始まり、近年は専業主婦の副業として対応してきた
- 「先縫い」は機械化（内製化）の動きもあるが、品質に課題があるとの声がある
- 各工程を内製化し、一貫生産に取り組む企業も出てきている



出典：山本篤民「奈良県靴下産地の現状と再生への課題」
（日本大学商学部紀要『商学集志』第91巻第1号（' 21.6））

【生じているSC上の脆弱性】

- ①製造工程を担う内職の確保 ⇒高齡化や共働きの増加、また最低賃金の上昇により内職の確保が困難
- ②仕上げ工程（靴下の風合いを出す）の確保 ⇒工賃の低下等による担い手の不足
- ③その他工程の確保 ⇒染色や刺繍等の工程も担い手が不足気味

2. 各産地（地域）における調査結果のポイント

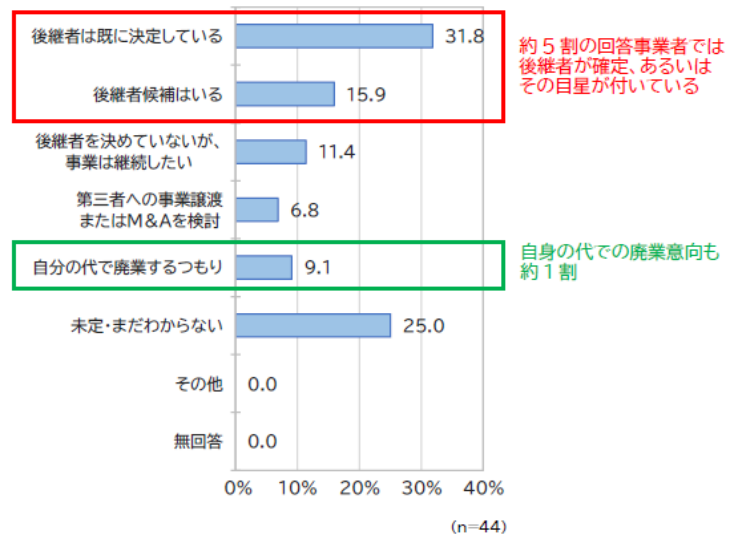
（5）奈良・靴下産地における事業承継の現状と課題

■ 企業における事業承継の現状と課題

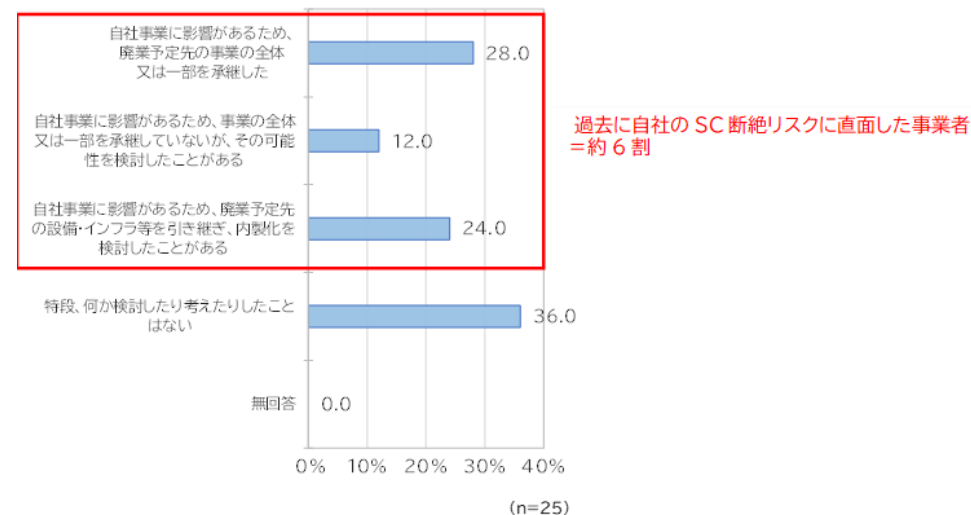
約5割の回答事業者では後継者やその目星は付いている
廃業予定先の事業や設備・インフラ等の引継ぎを検討した企業も約6割

- 事業承継の現状では、「後継者は既に決定している」が31.8%と最も多く、次いで、「未定・まだわからない」が25.0%となっている
- 「後継者は既に決定している」（31.8%）と「後継者候補はいる」（15.9%）を合わせると、**約5割の回答事業者では後継者やその目星は付いている**ことがうかがえる
- 一方、「**自分の代で廃業するつもり**」は4社（9.1%）となっている
- 取引先の廃業等の情報を見聞きした経験では、回答のあった事業者のうち半数がそうした経験を持つ
- うち、取引先の廃業情報に接した際の自社の行動等について、**自社のSC断絶リスクをふまえて、約6割の事業者が過去に何らかの検討**を行っている

事業承継の現状



取引先の廃業情報に接した際の自社の行動等



2. 各産地（地域）における調査結果のポイント

（6）奈良・靴下産地における支援体制の検討

行政＋業界団体＋商工団体を実施主体とした支援体制の構築

- 行政（広陵町役場・大和高田市役所）、業界団体（奈良県靴下工業協同組合）、商工団体（広陵町商工会・大和高田商工会議所）が実施主体となり、SC検討会参加支援機関を中心とした支援体制（全体プラットフォーム）の構築を検討

※実施主体については、支援内容に応じて担当を変えるイメージ

